



## 12月議会の報告

12日から始まった12月議会は、会期を1日延長し14日に終わりました。

12月議会の主な内容は、平成12年度の一般会計の歳入歳出決算と特別会計の歳入歳出決算の討論と採決です。

9月議会で各常任委員会に付託された各会計の決算について順次討論採決が行われました。

会派（緑風会）を代表して、一般会計歳入歳出決算について討論しました。

自主財源である町税は、前年度に比べ269,648千円と大きく減少し、その総額は5,210,701千円となっており、歳入に占める割合が52.2%で前年度に比べ0.9ポイント下回っています。給与所得者の平均賃金の低下や失業・経営不振等による滞納者の増加など景気低迷や高い失業率が具体的に企業や住民の財布のなかにその姿を現わしています。

歳入に注目する必要性を強く実感した平成12年度一般会計歳入歳出決算です。

今後も厳しい財政状況が続くと予測されるなか、平成12年度一般会計歳入歳出決算は、形式収支額が312,997,935円の黒字、実質収支額が305,250,079円の黒字となり、経常収支比率は89.3%で前年度に比べ8.7ポイント改善され、公債費比率は17.6%で前年度に比べ8.6ポイント下回っているなど評価できる内容です。

顧客意識やコスト意識、アカウントビリティ（説明責任）、スキルアップが強く求められていることを指摘し、有効性・経済性・効率性の観点から事務事業を見直し、今後とも行政の守備範囲の明確化・アウトソーシングの推進・OA化の推進などにより、スリムでスピーディーで効率的な行政運営を要望し、賛成しました。

また、島本町税条例の一部改正（町税の前納報奨金制度の見直し）や補正予算などが可決されました。

13日と14日には、9月議会と同数の13人の議員が一般質問しました。

## 9月議会の報告

9月26日から始まった9月議会は会期を延長し10月2日に終わりました。

平成12年度の決算についての質疑が主な内容です。

会派（緑風会）を代表して、平成12年度歳入歳出決算について、財政運営や行政の効率化、JR新駅、水道事業、教育環境などの点から大綱質疑をしました。

平成12年度の主な施策は、介護保険制度の実施やJR新駅の実現に向けた基本調査の実施、運動緑地公園の実施設計、私立山崎保育園建設のための用地確保と建設助成、第三小学校屋内運動場大規模改造、行政事務のOA化の推進などです。

質疑に対する答弁で、町長は選挙公約でもある水道料金の値下げについて、平成15年1月をメドに実施する、と明言しました。

また、（仮称）町営山崎住宅を建て替えるための不動産の買入れ協定の締結や運動緑地公園整備工事の請負契約の締結、清掃工場排ガス高度処理施設整備工事の請負契約の締結などが可決されました。

最終日には、13人の議員が一般質問をしましたが、会期の延長期間とともにこれは異例のことです。



# 活動報告

## 総務文教委員会視察

11月27日と28日に山梨県の上野原町と河口湖町へ視察に行ってきました。

上野原スポーツプラザ町民プールは、町民みんなの生涯スポーツや健康づくりの拠点として、平成5年4月1日にオープン。1階には温水プール（25m × 6コース）とこども用プール（15m × 6m）、スポーツサウナ、2階にはトレーニングルームがある。総事業費は676,424千円で、支出内訳は建築工事費620,704千円・設計管理費17,492千円・備品購入費34,418千円・その他3,810千円で、財源内訳は県費補助金7,866千円・地方債482,600千円・一般財源185,958千円。

年間の支出は5,300万円で人件費を含めると6,000万円ぐらいとなり、収入は2,400万円で、そのうちの1,000万円は、6

コースのうち2コースを貸しているふじスイミングからの収入。ふじスイミングは、都留市でスイミングスクールを営んでいる企業で、そのノウハウを活用するとともに、総利用者数の推計などにより6コースのうち2コースを貸し出し、ふじスイミングがこの温水プールでスイミングスクールを開いている。また、プールとマシーンルームの管理もふじスイミングが行っている。



河口湖町の税務課5人のプロジェクトチームが、日常的な業務をこなしながら遊漁税を創設し、今年の7月1日から施行された。

新税の創設に意欲的だった小佐野町長は、共同施行する勝山村長、足和田村長とともに臨んだ記者会見で、「マニュアルも先例もなかった。裸でエベレストを登るような気持ちで、職員がよくがんばった」と語った。

釣り客が減少するという理由で反対の声もあったが、釣り客は去年にくらべ1割の減少となっており、その原因は新税の導入の影響によるものなのかどうかはわからない。釣り客と税額は、7月が26,813人・5,362,600円、8月が26,413人・5,228,600円、9月が20,556人・4,111,200円、10月が18,067人・3,613,400円。釣り客の減少を2割ほどと見込んでいたのにもかかわらず、1割の減少でおさまったのは、以前から無料の駐車場や

公衆トイレ、周辺道路を整備するなど、観光客を迎える体制づくりができていたからだろう。まちづくりの明確なコンセプトと町長の強い意思があり、職員の自信と町長のリーダーシップを感じた。

「遊漁税」創設に当たって（河口湖町「遊漁税検討経緯」から）（抜粋）

河口湖は、富士山が見える釣り場として多くの釣り人が訪れている。特に、ここ数年における釣り人の数は、ブラックバスで一躍人気が高まり、年間25万人から30万人にも上っている。ところが、釣り人の増加とともに、釣り人による環境への悪影響も、また、深刻な問題を生じさせてきている。河口湖周辺の違法駐車、排泄行為による湖水の汚染、ごみの散乱、釣り糸等の放置などによる環境面への悪影響は、住民の福祉を阻害する要因として早急に解決しなければならない町の重大課題となってきている。

本町は、河口湖及びその周辺地域における環境保全及び環境美化並びに施設整備を推進するための新たな財源の確保のため、法定外目的税として「遊漁税」を新設することとしたものである。

## 淀川右岸水防事務組合視察

総務文教委員会視察の翌日と翌々日に千曲川（長野県）の洪水と災害復旧工事の歴史や川づくりを研修。洪水から住民の生命と財産を守るため、従来の河川行政は治水や利水を目的に行われてきた。川を樋のようにして、できるだけ早く河口部へ水を運ぶことを重視してきた。

川を地域住民の公的空間として、環境を重視した多自然型の川づくりを目指すきっかけとなったのは、長良川河口堰問題であり、それ以降河川行政は自然や住民にやさしい川づくりに変わってきている。多くの動植物が生息する千曲川の自然の豊かさと自然に配慮した川づくりを見た。

# 一般質問

## 9月議会の一般質問

### 東大寺公園の整備

大阪府の財政事情の悪化から、水無瀬川「水の文化園構想」が遅れています。今後の進捗は大阪府の財政次第ということですが、中断している整備計画など、早急に見直す必要があります。



水無瀬川のホタルは年々減少しています。その原因は名神高速道路の拡幅に伴う護岸工事などです。ホタルは少し汚れた環境に住む生き物で、

その点からもホタルは、生き物と人間が共生することの大切さを教えてくれます。

今後は、ホタルの住みやすい環境を上流部などに確保する必要があります。

### ブロードバンド元年

高速で大量にデータや映像を送ることができる時代がそこまできています。総務省の情報通信白書では、DSL やケーブルインターネットの普及、常時接続サービスの普及低廉化などにより、平成13年を「ブロードバンド元年」と位置付けています。放送と通信が融合するブロードバンド時代に対応した行政情報の伝達やインターネットを利用した24時間体制の各種申請・届け出などの行政サービスが求められています。

パソコンには多くの有害物質が含まれています。庁内にあるパソコンについては、その能力に応じて適材適所に配置し、少しでも長持ちさせることで廃棄時期を延ばしていくことが、環境的にも経済的にも大切です。

### この町のかたち研究会

大阪府内の議員たちが集り、2カ月に一度ぐらいの割合で勉強会を開いています。

12月例会のテーマは、「生活排水処理計画 - 下水道と浄化槽」。

多額の費用を要する公共下水道事業は、自治体の財政を圧迫しています。

府内平均の処理原価は156.3円/t、使用料単価は100.0/tで経費回収率は64.0%、そこで注目されているのが合併浄化槽です。島本町でも市街化調整区域の生活排水の処理をどうするかが、大きな課題です。

## 12月議会の一般質問

### IDカードの着用を

顔写真入りの身分証明書は、住民や来庁者に安心感と信頼感を与え、住民と行政職員との垣根を低くするツールです。

昨年の11月から顔写真入りの身分証明書の着用を進めた、阪南市の岩室市長は、「職員の抵抗もあったが、市民には好評である。」と語り、仕事への責任意識と顧客意識の向上につながったそうです。島本町でも平成15年度から着用の予定です。

### 職員提案制度と行政評価システム導入の進捗は

平成13年度の施政方針として、職員提案制度が職員研修の一環として導入され、また成果の検証や効果効率を判断するために行政評価システムの導入が検討されています。

職員提案制度を長続きさせるためにも、民間企業の人事考課のようなインセンティブを庁内に確保する必要があります。

行政評価システムは、行政運営の顧客志向や成果志向の考え方を根づかせるためにも必要で、アカウンタビリティ（説明責任）のツールです。

全職員を対象とした導入研修や具体的な着手など、早期の対応が必要です。

### 向日市で通学区域の弾力化

向日市では中学校の通学区域を弾力化し、来年4月より、特定の調整区域でのみ学校選択制となります。いずれ向日市のどの地域でも、小中学校を選択出来るシステムになる予定です。東京などの先進地ではきわめて好評で、児童生徒の選択制による移動は、経年変化により最終的には全体の15%程度に収束しています。

結局、自宅に近い学校に通学するようです

### ホームページを開設しています

議員になって1年目の1998年7月に本を頼りに自力でホームページを立ち上げました。

毎月1日と15日に更新し、今年の11月にはアクセス数が20,000回を超えました。ありがとうございます。

議会や島本町の情報などをホームページで発信してきましたが、2期目に入り、議員の説明責任を痛切に実感し、年2回をメドにこの新聞を発行することにしました。よろしくお願ひします。

## 阪南市の岩室市長と面談



友人の友人である岩室敏和市長にお会いし、地方自治体が抱える課題や問題についてお話しすることができました。

昨年の11月に市長に就任し、「泉州広域行政の実現」、「ガラス張りの市役所」、「経営感覚の導入の徹底」、「市役所は最大のサービス業」、「市民参画型市政の実現」の五つを市政運営方針として、住みよい暮らしよいまちづくりの実現に邁進し、28の新しい施策を実施されています。

泉州の改革市長として知られる市長自らが市民へのサービス提供者として実践行動し、旧来の慣習にとらわれることなく自身と責任を持って、さまざまな施策を展開されている。アカウンタビリティ（説明責任）の深

さと重さを実感した。

お会いした日の1週間前の金曜日には、早朝8時から職員や市民有志の方と駅前の清掃活動を行ったそうです。

「行政は最大のサービス業」と位置付ける岩室氏の言動には、自信と責任、仕事を楽しむ明るさと元気がありました。

## ペルーに学校が建ちました！

昨年の7月7日から8月6日まで、「ペルーに学校を建てよう！」という目的で、顧問をしているNPO法人・国際協力ネットワーク関西が、ペルーで活躍する民族音楽家セサル・ラ・トーレと彼のバンドのManaWanaを日本に招き、関西各地でチャリティ・コンサートを行いました。

島本町では7月11日にケリヤホールで、12日は島本第二中学校で、多くの方のご協力をいただきチャリティ・コンサートを行い、アンデスの音楽を楽しんでいただくとともに、暖かいご支援をいただきました。

今年の4月からNGO・ワールド・ビジョン・ペルーとキシワラニ村の人たちの協力を得て、学校建設が進められていましたが、ついに完成し、国際協力ネットワーク関西のメンバー4人が8月30日に日本を出発し、その開校式に出席しました。セサル&ManaWanaのメンバー全員も開校式に出席したそうです。新設された学校の教室は広く2つの教室と職員室の3部屋があり、真新しい机と椅子、黒板や教材も用意され、床もきれいなフローリングで、3年後に電気が通じることを見越して、天井には電灯までも設置されていたそうです。



## 街かどデイハウス



島本町にはじめての街かどデイハウス・ふれあいみなせの里は、阪急水無瀬駅の前にあり、8月1日にオープンしました。

介護予防と生活支援、生活相談、いきがづくりを目的に、島本町からの援助を受けて運営されています。

利用できる日と時間は、火曜日・木曜日・土曜日の10時から16時までです。利用規定は年齢が65歳以上の方・少しお身体の不自由な方・車いすを利用されている方・家に閉じこもりがちの方で、お元気な方も大歓迎だそ

うです。

現在、定員が平均して5人以上になっていないため、大阪府や島本町の補助が受けられない状態です。「子どもたちには、時間・空間・仲間という3つの“間”が欠けている」という中教審の報告がありましたが、子どもたちだけでなく、大人やお年寄りを含めたすべての人に3つの“間”が欠けています。そのことが地域のコミュニティの崩壊や地域の不活性化を招いています。

「街かどデイハウスを小学校区に1つ」は、関係者だけの願いではありません。

お問合せは「ふれあいみなせの里（TEL.963-0300）」まで。